

# 強者の戦略

## 【解答】

問1 地形図の縮尺：5万分の1

根拠：計曲線が100m間隔になっている。

問2 高地から低地へなだらかに傾斜している。

(19字)

問3 地形：氾濫原・河岸段丘崖・河岸段丘面

高度差：約180m

問4 **B**集落は、河川の洪水を避けるため、また、上位の段丘面(山地斜面)からの湧水を得られやすいため、河岸段丘面上に発展した集落である。古くから自然発生的に集落が立地し、人口の増加と共に集落が拡大したことから、家屋が不規則に集合する塊村となっている。一方、**D**集落は、もともと山地斜面で未開発の地であったが、昭和に入って圃場整備事業などが進展し、開拓のための人々が道に沿った形態で集落を形成した路村となっている。(199字)

問5 火山の山麓斜面であるため、地表面は水が得にくく傾斜があるので水田にはなりにくいですが、水はけのよい肥沃な土壌が分布し、なだらかな広い土地のため畑作には向いている。また、標高500mを超える海拔高度の高い土地であるため気温が低く、抑制栽培によって出荷時期を遅らせ端境期に市場に出荷できるという利点があり、さらに高速道路が近くを通るため市場である大都市への輸送に便利なことから、野菜の栽培が盛んになった。(197字)

## 【解説】

問1 こういう問題は面倒くさいですね。まあ地道に見ていきましょう。地形図右下の700mの計曲線は見つけられましたよね。そこから考えます。ちょっと右を見れば737.7mの三角点があります。計曲線とその三角点の間には1本しか等高線がありません。2万5千分の1地形図であれば3本必要ですから(10m間隔なので)、正解は5万分の1地形図となります。720mと

740mの等高線の間には三角点があるってことです。

問2 **火山が噴火をすれば、山頂の火口から溶岩が流れたり、火山灰が降り積もったりして、火口から円錐形に広がる山体を持ちやすくなります。**典型的なのは成層火山の富士山ですね。ですから、高度の高い方から低い方になだらかに傾斜していることを指摘できれば良いと思います。細かく言えば、火山の山地斜面は溶岩など比較的軟らかい岩石で形成されているので、雨による侵食作用を受けやすく、侵食谷が形成されていることを述べることもできます。ただ、受験生でそこまで述べるのは厳しいと思いますので、書けなくても気にしないで下さい。

問3 まず**A**付近は河川付近で水田の利用が見られるので氾濫原(後背湿地)でいいと思います。**水田は、漢字のごとく水を多量に消費するので、水利の良い場所で営まれます。**

次に**B**に行くルートですが、**A**のすぐ背後にある「**がけ**」の地図記号に注目します。地形図の問題に慣れている人は「**がけ**」に注目できたと思いますけど、できなかった人は、これから気をつけるようにしてください。**等高線が密集していなくても、河川付近に「がけ」の地図記号があれば河岸段丘である可能性は高くなります。**今回の**B**地点付近の「糸井」でも、畑や果樹園が見られるので河岸段丘面であると考えられます。**畑や果樹園は水はけの良い台地で営まれやすいからです。**

最後に**B**から**C**へのルートですが、**B**の真下に415mの標高点があります。**C**は520mの等高線上にあります。その間の、高速道路が走っている辺りに等高線が密集している部分があり、ここが河岸段丘崖になります。急傾斜を上るために道路が不自然に屈曲しているところもあります。

話は変わって、**B**地点付近の役場と**C**地点の

# 強者の戦略

高度差を求めてみましょう。先ほども述べたようにC地点は520mの等高線にあります。B地点の高度は、真下の415mの等高線から徐々に見定めていきます。400mの計曲線から3本離れた340m付近に役場が位置していることが分かります。なので、 $520\text{m}-340\text{m}=180\text{m}$ となります。

問4 B地点から条件を整理していきましょう。問3から、B地点の集落は河岸段丘面に立地していることが分かりました。付近の河川は、行政界から流路がずれている部分もあるのでかつては激しく蛇行していたと考えられます。よって、洪水の害を避けて河岸段丘面上に立地したと考えることができます。また、B地点の集落は、山地斜面の端の段丘崖の崖下でもあります。洪積台地などの崖下は湧水帯となって生活用水などを得られやすいので集落が立地しやすくなります。このことから、洪水の害を避けることと湧水帯であること、という二つの利点から河岸段丘面上に立地したと言えます。表面的な形態に関しては、ある程度、道に沿って民家が並んでいることは分かっていますが、路村であるとか街村であるとかを指摘できるほど明確な立地になっていません。単に、都市化の進展と共に人口が増加して、虫喰い状に家が点在していっただけでしょう。

一方、D地点の集落は明らかに道に沿って集落が形成されていることが分かります。ただ、ここで安易に、「江戸時代の新田開発で、未開発地だった火山山麓が開発されて、路村形態を取った」と述べてはいけません。地名をよく見てください！「昭和村」と記載されていますよ。ってことは、昭和時代に入って圃場整備事業などが進んで耕地が整備され、道沿いに開拓民が入植していったと考えなければなりません。受験生は困った時にはすぐに江戸時代の新田開発を使いたがりますが、入試で問われ

る頻度は、昭和時代の圃場整備事業の方が多いと思います。ひっかかった人はこれから気を付けるように！

問5 あいかわらずこの問題も武者震いするぐらいいい問題ですよ。まあ、地形図での野菜栽培に関する問題の典型的な解き方を先に示しますと以下のようなこととなります。

- 1)野菜栽培(畑作)に有利な、水はけのよい土地であることを指摘する
- 2)鮮度を必要とする野菜だから、大都市へ輸送しやすいように道路網が発達していることを指摘する

今回の問題の場合は、火山山麓の火山灰質の土地で水はけがよく、野菜栽培に適していると述べます。次に、高速道路が通過していることを述べます。もっと気づけた方は、「昭和IC(インターチェンジ)」が近いことを指摘できたのではないのでしょうか。インターチェンジは一般道と高速道路が接合する部分ですね。インターチェンジが近ければ、収穫した野菜を速やかに大都市に運べることとなります。

ただし、この問題は200字問題なのでもっと書くべきことを探す必要があります。ちなみにこの地形図は「赤城原」(赤木山)周辺のもので、群馬県に当たっています。沼田の地名からも分かる人がいたかもしれません。群馬県の山岳地帯では寒冷な気候条件を生かして抑制栽培が盛んで白菜やレタスなどの高原野菜を栽培していたはずですよ。このことを思い出せた方は文字数を増やせたと思います。

どうでしたか？良問かつ難問でしたね。次回はどのような問題にするかまだ決めてませんが、またチャレンジしてください！

# 強者の戦略

行政界と河川の流路が  
ずれているので、かつて蛇行が  
激しかったと推測できる

